科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護学科 医療栄養学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18003	2	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	文学 (Literature)				
担当教員名	三舟　隆之				

授業の概要及び到達目標

〔概要〕浦島太郎の物語が古代伝承をベースとし、各時代によって変化したことを理解する。
〔到達目標〕日本人にとって、「浦島太郎」の物語は誰もが知っている物語であるが、実はこの物語は中国の神仙思想を基にした不老不死の物語であった。ところがそれが時代とともに、さまざまに変化し、現在の我々が知る、浦島物語に変貌する。この講義は、そもそももととなる浦島説話がどういうものであったか、その背景にあった不老不死へのあこがれについて言及し、かつその後の浦島説話がどのように変化して、現代の形になったか、その過程を理解する。

準　備　学　習　等

授業は講義形式で行う。授業内容は、
第１回：現代の浦島太郎物語の問題点、　テキストの「プロローグ」をよく読んでおくこと。
第２・３回：古代の浦島子伝承、　テキストの第２章をよく読んでおくこと。
第４回：浦島子伝承の源流、　テキストの第２章をよく読んでおくこと。
第５回：浦島太郎の成立―『御伽草子』、　テキストの第３章をよく読んでおくこと。
第６・７回：江戸時代の浦島太郎の展開、　テキストの第４章をよく読んでおくこと。
第８回：明治・大正時代の浦島太郎、　テキストの第５章をよく読んでおくこと。
　日本人にとってなじみ深い浦島太郎物語が古代にさかのぼるだけでなく、中国や韓国にも類似した物語があることを理解し、それがどのように日本で定着し展開していくか、その流れを考察する。講義形式なので、授業の内容を授業の中で理解することが求められるが、予習・復習の必要は無い。浦島太郎の物語は、実は古代の医療観とも関係するので、１年時の「歴史」の授業を履修しておくことが望ましい。教養を高めようという受講生を求める。

成績評価の方法	レポートによって評価100％を行う。レポートは、授業の内容を理解した上で、自ら浦島太郎の物語を書く、というものである。
テキスト	三舟隆之『浦島太郎の日本史』(歴史文化ライブラリー285、吉川弘文館)。必要に応じて、授業ごとにプリントを配布する。
参考図書	瀧音能之・三舟隆之『丹後半島歴史紀行―浦島太郎伝説探訪』(河出書房新社)

備　　考	「歴史」の授業を履修しておくことが望ましい。 質問等は授業終了後、教室で受け付ける

授　業　計　画
第１回：現代の浦島太郎 第２回：浦嶋子伝承Ⅰ（奈良）･･･『丹後国風土記』『万葉集』と浦嶋子 第３回：神仙思想―不老不死の世界、日中説話の比較 第４回：浦嶋子伝承Ⅱ（平安）･･･その後の浦嶋子伝承、『浦嶋子伝』の成立 第５回：中世の浦島物語･･･『御伽草子』の浦島伝承 第６回：近世の浦島物語･･･浦島物語のパロディー化、浦島寺の成立（神奈川･木曽） 第７回：近代の浦島物語…『日本昔噺』、国定教科書の浦島と浦島文学 第８回：　まとめ